様式３

選択的評価事項に係る評価

自 己 評 価 書

令和3年6月

大分工業高等専門学校

・自己点検・評価結果欄の各項目のチェック欄で「・・・していない」等にチェック（■）した場合は、自己点検・評価の根拠資料・説明等欄に、その理由等を記述すること。

・自己点検・評価の根拠資料・説明等欄の記号は次のとおり。

◇：明示している根拠資料については、該当資料名、資料番号を記入すること。資料は、該当箇所がわかるように（行の明示、下線や囲み線を引くなど）して、まとめて自己評価書「根拠資料編」として作成すること。資料を、ウェブサイト等で公表している場合には、ウェブサイト公表資料と付した上で、当該ページを印刷した資料（該当資料名、資料番号を記入）及びそのURLを欄中に貼付すること。

◆：資料等を基に自己点検・評価の項目に係る状況を記述すること。（取組や活動の内容等の客観的事実について具体的に記述し、その状況についての分析結果をその結果を導いた理由とともに記述。）記述は、できるだけ簡潔にし、分量は、200字程度を目安とすること。
なお、「・・・場合は、」とあるものについては、該当する場合のみ記述すること。また、根拠資料の資料名、資料番号を記入すること。

・根拠資料のみでは、内容が伝わりにくい場合は、自己点検・評価の根拠資料・説明等欄もしくは根拠資料内に簡単な補足説明を加えること。

・関係法令の略は次のとおり。

(法)学校教育法、(設)高等専門学校設置基準

Ⅰ　高等専門学校の現況及び特徴

(1)　現況	
1．高等専門学校名	大分工業高等専門学校
2．所在地	大分県大分市大字牧1666番地
3．学科等の構成	準学士課程：機械工学科，電気電子工学科，情報工学科，都市・環境工学科 専攻科課程：機械・環境システム工学専攻，電気電子情報工学専攻
4．認証評価以外の第三者評価等の状況	特例適用専攻科（専攻名：機械・環境システム工学専攻，電気電子情報工学専攻） ＪＡＢＥＥ認定プログラム（専攻名：システムデザイン工学プログラム） その他（なし）
5．学生数及び教員数（評価実施年度の５月１日現在）	学生数：875人 教員数：専任教員59人 助手数：0人
(2)特徴	

（1）沿革

大分工業高等専門学校（以下「本校」という。）は、地域産業の振興に寄与する実践的技術者の育成を目的として昭和３８年に大分県における最初の理工系高等教育機関として県庁所在地（大分市）に設置され、機械工学科、電気工学科の２学科３学級で開校した。その後、昭和４２年度に土木工学科を増設し、平成元年度には機械工学科の１学級を制御情報工学科へと改組し、４専門学科体制となった。さらに、平成１３年に電気工学科を電気電子工学科に改称し、土木工学科を平成１６年に都市システム工学科に、平成２３年に都市・環境工学科に改称した。また、平成２４年には、制御情報工学科を情報工学科に改称した。

現在の本校本科は、一般科文系、一般科理系及び４専門学科（機械工学科、電気電子工学科、情報工学科、都市・環境工学科）で構成される。また、準学士課程卒業後も進学意欲を持つ学生の増加に対応し、平成１５年には機械・環境システム工学専攻、電気電子情報工学専攻の２専攻からなる専攻科が設置された。

（2）象徴

校章は、大分県の「大」の字を円形に図案化したものであり、正門近くのモニュメントには哲学者カール・ヒルティーの言葉「AMOR OMNIA VINCIT（愛はすべてに打ち勝つ）」が刻まれている。モニュメント自体がシンボルとなり、刻まれた言葉は教育目的や学習・教育目標へと発展した。

（3）教育課程

準学士課程の低学年（１～３年生）教育は、「基礎力養成プログラム」と称し、高等学校に相当する教育に加え技術者教育への導入に必要な基礎学力養成に力点を置いている。準学士課程の高学年（４～５年生）と専攻科課程の教育はJABEE 認定を受けており「システムデザイン工学プログラム」と称している。このプログラム前半では、教養基礎教育、科学や工学の基礎教育及び技術者としてのセンスを磨く教育に重点を置き、後半の専攻科教育では、専門工学の知識獲得・継続的研究活動と同時に複合的な工学及び科学分野の知識とその運用力をも修得することを主眼とし、技術者倫理やコミュニケーション能力など、技術者に必要な素養も修得する。

また、平成２９年度から、アグリエンジニアリング教育プログラム、平成３０年度から、災害レジリエントマインド育成教育プログラムを導入し、専門科目間における横糸教育として「農学の素養を持った技術者」及び「レジリエントマインドと基盤的知識を持った技術者」の育成を行うこととしている。

（4）地域連携

　本校は、平成１５年に会員企業・団体等とともに大分高専テクノフォーラムを設立し、技術交流を深め地域の産業と文化の発展に寄与しているほか、地域との交流や子供たちに科学技術を紹介し理科離れの防止に寄与するため、出前実験科学講座「科学と遊ぼう」と公開講座等を実施している。これらは、地域共創テクノセンターを中心に、産学官連携、自治体等連携、地域教育連携の３つを柱とした地域連携活動の一環事業となっており、それらの需要の高さから地域に開かれた高専としての役割がますます重要になっている。

　大分県、大分市及び国東市と包括連携協定、国土交通省大分河川事務所と連携・協力に関する協定、大分大学と教育研究等交流・協力に関する協定をそれぞれ締結し、地域の発展に寄与するよう、連携を図っている。

　また、大分市や農家などからの要請による大葉のハウス栽培時におけるＬＥＤ照明の導入試験や三つ葉栽培における下葉処理機の改良及び豊後大野市の菊栽培企業、金融機関との共同研究による菊の芽かきロボットの製作等、地域の課題に取り組むことにより、地域への貢献を果たしている。

Ⅱ　目的

１．大分工業高等専門学校の使命

本校では目的を定め、学則の第１章第１条に以下のように掲げている：

第１条 大分工業高等専門学校（以下「本校」という。）は、教育基本法の精神にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成し、心身ともに健康な技術者を養成することを目的とする。

２ 本校は、前項の目的を達成するための教育研究等を行い、その成果を社会に広く提供することにより、社会の発展に貢献するものとする。

３ 本校の教育目的その他の必要な事項については、別に定める。

また、第３項に基づき、「大分工業高等専門学校の教育目的等に関する規則」を別則として定め、準学士課程、専攻科課程などの目的を明文化している。

２．教育目的

心身ともに健康な技術者の具体的条件を含め、以下を教育目的としている：

「人間性に溢れ国際感覚を備え、探求心、創造性、表現能力を有する技術者の養成」

３．育成すべき人材像

教育目的の下、準学士課程及び専攻科課程の育成すべき人材像は以下の通りである：

準学士課程（１～３年生：志学 ＋ ４、５年生：修学）

(1) ５年間の一貫教育により、深い専門の学芸と、豊かな教養及び高度な専門技術を身につけた技術者

(2) 対象の本質を理解し分析する能力と、モデル化し総合する能力を備え、チームにあっては協調し互いに高め合うことのできる、専門基礎技術力と教養基礎力に裏打ちされた実践的技術者

専攻科課程 （専学）

(1) 高度情報化社会における先端技術に対応しうる課題探求能力を身につけた独創的かつ創造的研究開発能力を有する人材

(2) 自ら方向性を定め学習し問題を発見して解析する力と問題を解決し自ら設計して新しいものを生み出す力を備え、高度な技術力と豊かな教養力に裏打ちされた創造的技術者

４．学習・教育目標

　準学士課程及び専攻科課程で教育目的に沿った人材を育成するため、学生が身につける素養や成果を学習・教育目標として定めている。本校では技術者として将来に渡って身につけるべき能力として５つの主目標(Ａ)～(Ｅ)を掲げている。これらの主目標をもとに、在学時に身につけるべき能力が(Ａ１)～(Ｅ３)の11の項目に細分化されて、本科卒業または専攻科修了までに身に付けておくべき到達目標として規定されている。この11の到達目標は授業科目系統図を通じ個々の教科と対応している。学生は、シラバスやポートフォリオで成績を自己管理し、単位修得し学年進行を行うことで目標の達成度が確認できるようになっている。

・ 準学士課程

主目標(Ａ)【愛の精神】：世界平和に貢献できる技術者に必要な豊かな教養、自ら考える力、いつくしみの心を身につける

　到達目標(Ａ１)：自ら考える力を身につける

　到達目標(Ａ２)：技術者としての倫理を身につける

主目標(Ｂ)【科学や工学の基礎】：科学の粋を極める技術者に必要な数学、自然科学、情報技術、専門工学の基礎を身につける

　到達目標(Ｂ１)：数学、自然科学の力を身につける

　到達目標(Ｂ２)：情報技術、専門工学の基礎を身につける

主目標(Ｃ)【コミュニケーション能力】：地域や国際舞台での活躍をめざして、多様な文化の理解とコミュニケーションできる力を身につける

　到達目標(Ｃ１)：表現する力、ディスカッションする力を身につける

　到達目標(Ｃ２)：英語を用いてコミュニケーションできる力を身につける

主目標(Ｄ)【技術者としてのセンス】：創造的技術者としてのセンスを磨き、探究心、分析力、イメージ力を身につける

　到達目標(Ｄ１)：探求心、分析力、イメージ力、デザイン能力を身につける

　到達目標(Ｄ２)：協力して問題を解決する力を身につける

・ **専攻科課程**

主目標(Ａ)【愛の精神】：世界平和に貢献できる技術者に必要な豊かな教養、自ら考える力、いつくしみの心を身につける

到達目標(Ａ１)：自ら考える力を身につける

到達目標(Ａ２)：技術者としての倫理を身につける

主目標(Ｂ)【科学や工学の基礎】：科学の粋を極める技術者に必要な数学、自然科学、情報技術、専門工学の基礎を身につける

到達目標(Ｂ１)：数学、自然科学の力を身につける

到達目標(Ｂ２)：情報技術、専門工学の基礎を身につける

主目標(Ｃ)【コミュニケーション能力】：地域や国際舞台での活躍をめざして、多様な文化の理解とコミュニケーションできる力を身につける

到達目標(Ｃ１)：表現する力、ディスカッションする力を身につける

到達目標(Ｃ２)：英語を用いてコミュニケーションできる力を身につける

主目標(Ｄ)【技術者としてのセンス】：創造的技術者としてのセンスを磨き、探究心、分析力、イメージ力を身につける

到達目標(Ｄ１)：探求心、分析力、イメージ力、デザイン能力を身につける

到達目標(Ｄ２)：協力して問題を解決する力を身につける

主目標(Ｅ)【専門工学の活用】：専門工学の知識を修得してその相互関連性を理解し、これを活用する力を身につける

到達目標(Ｅ１)：専門工学の知識を獲得する

到達目標(Ｅ２)：工学の相互関連性を理解する

到達目標(Ｅ３)：専門分野における研究開発の体験を通じて問題を発見し、解決する力を身につける

Ⅲ　選択的評価事項の自己評価等

選択的評価事項Ａ　研究活動の状況

評価の視点
Ａ－１　高等専門学校の研究活動の目的等に照らして、必要な研究体制及び支援体制が整備され、機能しており、研究活動の目的に沿った成果が得られていること。

観点Ａ－１－①　研究活動に関する目的、基本方針、目標等が適切に定められているか。

【留意点】
○　個々の研究者の持つ研究目的ではなく、学校全体として独自に定めた研究活動を位置付ける目的等を定めていることが求められる。

関係法令　(設)第2条第2項

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■　満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 研究活動に関する目的、基本方針、目標等を適切に定めているか。 ■　定めている	◇定めていることがわかる資料		
	資料A-1-1-(1)-01_大分工業高等専門学校における研究活動の目的，基本方針に関する基本事項		

観点Ａ－１－②　研究活動の目的等に照らして、研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。

【留意点】
○　観点Ａ－１－①の研究活動に関する目的、基本方針、目標等を達成するための、実施体制、設備等を含む研究体制及び支援体制の整備状況・活動状況について分析すること。
○　実施体制の整備については、研究に携わる教員等の配置状況、センター等設置状況を示すこと。
○　研究活動状況については、共同研究等、他研究機関や地域社会との連携体制及びその機能状況等の具体例を示すこと。

関係法令　(設)第2条

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■　満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 学校が設定した研究活動の目的等を達成するための実施体制を整備しているか。 ■　整備している	◇目的等ごとに、実施体制が整備されていることがわかる資料		
	資料A-1-2-(1)-01_学校要覧(p.6,7,9,11,13,15)	専門学科を中心に殆どの教員が学位を有しており、本校の教育内容を学術の進展に即応させる体制が整備されている。	
	資料A-1-2-(1)-02_大分工業高等専門学校運営組織規則(第4条、第9条、第10条)	実施体制として、研究担当と連携担当の校長補佐を配置し、地域との共同研究等を通して研究の成果を広く社会に還元することのできる「地域共創テクノセンター」、研究に関する技術的業務を行う技術部を配置している。	

(2) 学校が設定した研究活動の目的等を達成するための設備等を含む研究体制を整備しているか。 ■　整備している	◇目的等ごとに、研究体制が整備されていることがわかる資料		
	資料A-1-2-(2)-01_大分工業高等専門学校各種委員会規程(地域共創テクノセンター運営委員会) 資料A-1-2-(2)-02_大分工業高等専門学校地域共創テクノセンター規則 資料A-1-2-(2)-03_大分工業高等専門学校総合情報センター規則 資料A-1-2-(2)-04_大分高専における導入機器	地域共創テクノセンターでは、工業や環境に関する研究、地域企業等との共同研究、地域企業への助言及び指導、センター内の施設および設備の管理運営、ものづくりを通じた創造性の育成、公開講座等実施の業務を行っている。 総合情報センターでは、コンピュータシステム等の運用，保全及びその整備充実に関する業務の他、情報処理に関する研究、開発及び調査に関する業務を行っている。 研究活動は学内設備や導入機器を活用し行われている。	
(3) 学校が設定した研究活動の目的等を達成するための支援体制を整備しているか。 ■　整備している	◇目的等ごとに、支援体制が整備されていることがわかる資料		
	資料A-1-2-(3)-01_大分工業高等専門学校事務組織及び事務分掌規程(該当箇所) 資料A-1-2-(3)-02_大分工業高等専門学校技術部規程 資料A-1-2-(3)-03_大分工業高等専門学校研究推進室規程	研究支援は、主に研究推進室、事務部、技術部で行われている。研究推進室では、科学研究費申請書類の学内査読・高専機構査読による研究資金獲得に関する支援が行われている。事務的支援として、総務係は、内地研究員及び在外研究員に関する研究支援を行っている。企画係は、科学研究費等の支援、複数の教員で構成される研究ネットワークへの研究助成を行う大分高専研究助成金（校長裁量経費）等の研究支援や外部資金獲得のための情報収集や周知活動などの支援に加え、産学連携、地域連携等の研究支援を行っている。図書係は、Webサービスによる研究情報収集や紀要による研究情報の広報の研究支援を行っている。技術部は、専門ごとに設計創造室、解析構造室、情報基盤室及び計測処理室に分かれており、実験に必要な器具の製作等の研究支援を行っている。	
(4) (1)～(3)の体制の下、研究活動が十分に行われているか。 ■　行われている	◇研究活動の実施状況がわかる資料		
	資料A-1-2-(4)-01_研究者紹介	教員は、各専門分野・領域に従って配置され、その特色に応じた研究テーマに取り組んでいる。	
	資料A-1-2-(4)-02_研究紀要	主な研究内容は、本校紀要にて公開されている。	
	資料A-1-2-(4)-03_在外研究員派遣状況 資料A-1-2-(4)-04_内地研究員派遣状況	内地研究員及び在外研究員として学外に長期滞在し研究活動が行われている。	
	資料A-1-2-(4)-05_外部資金獲得一覧 資料A-1-2-(4)-06_地域連携・交流活動の紹介 資料A-1-2-(4)-07_コンクリート受託試験に係る試験料収入の使途に関する申合せ	地域共創テクノセンターでは、産学官連携担当教授を副センター長に配置し、企業と教員との技術マッチング、産学官連携研究のコーディネートを行うことで、研究活動・外部資金獲得の支援や推進が行われており、技術相談、共同研究、および受託研究を通して、産学連携、地域連携を行っている。また、若手研究者の研究活動を支援するために、コンクリート受託試験での試験料収入をもとに校長裁量で研究助成を行う制度が存在する。	

	資料A-1-2-(4)-08_図書館　ホームページ	図書係は、Webサービスによる研究情報収集支援や紀要による研究情報の広報の研究支援を行っている。	
	資料A-1-2-(4)-09_研究紹介全国 KOSEN 研究 NETWORK	全国の高専の研究ネットワーク形成と地域の技術課題解決を目的とした「全国KOSEN多孔体・多孔質体研究ネットワーク」や「全国KOSEN放電プラズマの研究ネットワーク」に教員が所属し研究活動を行っている。	

観点Ａ－１－③　研究活動の目的等に沿った成果が得られているか。

【留意点】

○　研究活動の目的等に照らして、どの程度活動の成果があげられているか、目的の達成度について実績等を示すデータ等を提示すること。

○　目的が複数ある場合は、それぞれの目的ごとに、目的に照らした研究の成果及び目的の達成度について資料を提示すること。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■　満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 学校が設定した研究活動の目的等に照らして、成果が得られているか。 ■　得られている	◇目的等ごとに、活動の成果がわかる資料		
	資料A-1-3-(1)-01_研究者情報(ウェブページ)	研究活動内容や成果の詳細は本校ウェブページの研究者情報より辿ることができ、地域との研究活動は地域共創テクノセンターが発行している広報誌で知ることができる。 教員の研究活動状況について、研究論文（査読有）、著書、研究論文（査読無、研究紀要含）、講演発表、および教員の各種受賞状況などを示す。また、科学研究費補助金の申請・採択状況、外部資金受入状況、特許出願の状況を示す。 農工連携においては、地域農家、農業研究機関、及び他教育機関と連携し、アグリエンジニアリングに関する研究と教育が行われている。具体的には、大葉LED照明導入や菊芽摘み自動化に向けた研究活動などが行われ、専攻科PBL科目のプロジェクト実験では大葉栽培実験装置製作が行われ、授業科目の農学概論では大学教員を含めた複数の教員により教科書が編製されWeb授業を実施している。	
	資料A-1-3-(1)-02_地域共創テクノセンター紹介パンフレット		
	資料A-1-3-(1)-03_研究活動状況、教員の各種表彰受賞一覧		
	資料A-1-3-(1)-04_科学研究費の申請及び採択状況		
	資料A-1-3-(1)-05_学科別外部資金受け入れ状況(件数・受入金額)		
	資料A-1-3-(1)-06_学科別特許出願状況		
	資料A-1-3-(1)-07_アグリエンジニアリング教育における地域との連携テーマ・研究発表一覧等(はじめに,pp.40,41,66,68)		

観点Ａ－１－④　研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。

【留意点】

○　組織の役割、人的規模・バランス、組織間の連携・意思決定プロセス・責任の明確化等がわかる資料を提示すること。

○　具体的な改善事例については、活動状況とともに効果や成果について示すこと。

○　研究活動等の実施状況や問題点を把握しているものの、現状では改善を要する状況にない場合には、問題が生じた際に対応できる体制の整備状況について資料を提示すること。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■　満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 観点Ａ－１－③で把握した成果を基に問題点等を把握し、それを改善に結び付けるための体制を整備しているか。 ■　整備している	◇改善の体制がわかる資料		
	資料A-1-4-(1)-01_大分工業高等専門学校学校運営委員会規程		
	資料A-1-4-(1)-02_大分工業高等専門学校各種委員会規程(FD・SD委員会、地域共創テクノセンター運営委員会、財務委員会)	基本的な体制として、研究教育全般に関して学校運営委員会、および地域共創テクノセンター運営委員会において審議が行われている。教員の研究業績や外部資金獲得状況の把握についてはFD・SD委員会、学内予算配分については財務委員会が組織されている。平成30年度には、研究推進や研究費獲得のため、学内に研究推進室を設置した。研究推進室では、主に、科学研究費申請書類の学内査読・高専機構査読による研究資金獲得に関する支援、校内予算配分に繋がる研究業績の収集整理、教員評価に係る業務等が行われている。各部署では、委員会会議の他、教育システム点検改善シートにより教職員の意見を汲み上げ問題点等を把握し改善に結びつけている。	
	資料A-1-2-(3)-03_大分工業高等専門学校研究推進室規程		再掲
	資料A-1-4-(1)-03_令和2年度第1回地域共創テクノセンター委員会議事概要(非公表)		
	資料A-1-4-(1)-04_令和2年度第1回学校運営委員会議事概要(非公表)		
	資料A-1-4-(1)-05_教育システム点検改善シート(地域共創テクノセンター)		
	資料A-1-4-(1)-06_令和2年度第1回財務委員会議事概要(非公表)		
	資料A-1-3-(1)-04_科学研究費の申請及び採択状況		再掲
	資料A-1-4-(1)-07_令和元年度第1回研究推進室会議議事資料(非公表)		
	資料A-1-4-(1)-08_令和2年度第1回研究推進室会議議事概要(非公表)		
	◆学校が設定した研究活動の目的等の項目に対応させた具体的な改善事例があれば、具体的な内容について、資料を基に記述する。		
	科学研究費の申請促進と採択率向上のため、申請者と採択者の個人研究費として、奨励配分を行っている(資料A-1-4-(1)-06)。年々、申請率は上昇している(資料A-1-3-(1)-04)。 新設した研究推進室で、科研費不採択となったテーマの審査状況把握調査を行った(資料A-1-4-(1)-07)。その後、研究推進室で学内査読システムを立ち上げ、令和2年度希望者の申請書をベテラン教員が査読を行ったことで(資料A-1-4-(1)-08)、令和3年度の研究課題(若手1件,基盤C1件)の採択につながった。		

Ａ－１　特記事項　　この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。

本校の特徴的な研究活動として、農工連携に関する活動があり、農作物の生産量向上、農作業の自動化、農機改良などの地域農家のニーズをもとに、それを発展させて外部資金を獲得し、農家や企業等との連携を強固にしている。また、国立高専機構のGEAR 5.0（Society5.0型未来技術人財育成事業）において、他の研究機関と協力しながら、先端マテリアル産学官協働研究プロジェクトを遂行している。このプロジェクトではメンバーの研究分野によって３つのグループを作り、複数教員による共同研究、論文等発表、地域企業との連携、外部資金獲得の活動を行っている。これらの活動が発展して、令和３年１月には、水素社会の実現に向けた研究を遂行するため産学官協働研究室が学内に設置され、また、令和３年度に採択された文部科学省先端研究基盤共用促進事業（コアファシリティ構築支援プログラム）で、本校はプログラムの実施校として選ばれている。

	資料A-1-特-01_農工連携受入決定通知等（非公表）		
	資料A-1-特-02_GEAR5.0採択通知		
	資料A-1-特-03_令和2年度KOSENフォーラム発表資料（非公表）		
	資料A-1-特-04_産学官協働研究室設置申請書（非公表）		

選択的評価事項Ａ　目的の達成状況の判断			
■　目的の達成状況が良好である			
選択的評価事項Ａ			
優れた点			
本校の地域共創テクノセンターを中心とした研究活動推進体制のもと、農工連携やSociety5.0型研究等において、学内外と連携した研究グループの形成、複数教員での共同研究や外部資金獲得が行われている。			
	資料A-1-2-(4)-05_外部資金獲得一覧		再掲
改善を要する点			

選択的評価事項Ｂ　地域貢献活動等の状況

評価の視点
Ｂ－１　高等専門学校の地域貢献活動等に関する目的等に照らして、地域貢献活動が適切に行われ、活動の成果が認められていること。

観点Ｂ－１－①　地域貢献活動等に関する目的、基本方針、目標等が適切に定められているか。

【留意点】
〇　学校全体として独自に定めた地域貢献活動を位置付ける目的等を定めていることが求められる。

関係法令　(法)第107条　(設)第21条

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■　満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 地域貢献活動等に関する目的、基本方針、目標等を適切に定めているか。	◇定めていることがわかる資料		
■　定めている	資料B-1-1-(1)-01_地域社会貢献活動の目的及び基本方針に関する基本事項		

観点Ｂ－１－②　地域貢献活動等の目的等に照らして、活動が計画的に実施されているか。

【留意点】
〇　実施体制について分析することは必須ではない。

関係法令　(法)第107条　(設)第21条

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■　満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 学校が設定した地域貢献活動等について、具体的な方針を策定しているか。	◇具体的な方針が策定されていることがわかる資料		
■　策定している	資料B-1-2-(1)-01_大分工業高等専門学校地域共創テクノセンター規則	大分工業高等専門学校における地域社会貢献活動の目的，基本方針に基づいて，地域共創テクノセンター規則に掲げる地域貢献活動の業務を行っており，センター運営委員会で具体的な方針を定めている．	
	資料B-1-2-(1)-02_令和2年度第1回地域共創テクノセンター運営委員会議事概要(年度当初開催分)	年度当初の地域共創テクノセンター運営委員会で地域貢献活動の行事予定を策定し，その計画をや実施状況を教員会議で周知している．	
	資料B-1-2-(1)-03_地域共創テクノセンター活動報告		
(2) (1)の方針に基づき計画的に実施しているか。	◇実施状況がわかる資料		
■　実施している	資料B-1-2-(2)-01_地域共創テクノセンター活動報告	地域共創テクノセンターの活動として，令和元年度に６０件，令和２年度に８１件の活動を計画的に実施している．	
	資料B-1-2-(2)-02_地域共創テクノセンター事業報告(大分高専テクノフォーラム資料)	テクノフォーラムの活動，地域産業界及び官との技術交流，技術相談並びに共同研究・受託研究の推進，県内の産学官交流会議への参加を実施している．また，学生の海外研究支援，県外他機関との連携などを開催している．	

	資料B-1-2-(2)-03_公開講座実施状況	公開講座は，平成２７年度に５件，平成２８年度に６件，平成２９年度に７件，平成３０年度に８件，令和元年度に６件を実施している．	
	資料B-1-2-(2)-04_科学と遊ぼう!	科学と遊ぼうは，小中学生を対象に，平成２７年度に１件（６６名），平成２８年度に１件（１５名），平成２９年度に４件（１０９名），平成３０年度に３件（７９件），令和元年度に３件（６１名）を実施している．	
	資料B-1-2-(2)-05_その他の地域教育連携活動状況	平成２７年度～令和元年度に合計１１件の公開セミナーや大人のためのものづくり講座を実施している．中学生，高校生，一般を対象としており，合計２８７名の方に参加頂いている．	
	資料B-1-2-(2)-06_技術相談受付申込書	地域共創テクノセンターのホームページで学外へ技術相談の受付を公開し，教職員へも周知を行い，技術相談の受付を実施している．	
	資料B-1-2-(2)-07_技術相談受付教職員向け		
	資料B-1-2-(2)-08_コンクリート試験場収支報告書、受託試験月別受注表	令和２年度コンクリート試験場収支報告書（決算書）を示しており，前年度実績と当年推算や実績を照らし合わせながら計画的に受託試験を実施している．	
	資料B-1-2-(2)-09_図書館ホームページ一般利用者案内	図書館ホームページで一般利用者資格や案内を公開しており，利用希望の方へ必要な手続きを示して図書館利用の受付を随時行っている．	
	資料B-1-2-(2)-10_体育施設・教室等貸付状況一覧表(過去5年)	平成２８年度～令和２年度の期間に選挙，柔道，バスケットボール，陸上，大分県の活動に対して施設の貸付けている．施設貸出の際には，学内の関係者に照会した上で，計画的な活動を行っている．	
	資料B-1-2-(2)-11_体育館照会		

観点Ｂ－１－③　地域貢献活動等の実績や活動参加者等の満足度等から判断して、目的に沿った活動の成果が認められるか。

【留意点】

○　目的が複数ある場合は、それぞれの目的ごとに、活動の成果がわかる資料を提示すること。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■　満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 学校が設定した地域貢献活動等の目的等に照らして、成果が認められるか。 ■　認められる	◇活動の成果がわかる資料（活動別参加者数、参加者・利用者アンケート等）		
	資料B-1-3-(1)-01_公開講座アンケート集計結果	令和元年度の公開講座のアンケート結果を示す．参加者は15名（アンケート回答数は13名）であった．公開講座の満足度は，とても満足が84%，だいたい満足が8%と概ね満足している成果が得られている．	
	資料B-1-3-(1)-02_科学と遊ぼう!アンケート集計結果	令和元年度の科学と遊ぼう！のアンケート結果を示す．参加者は15名（アンケート回答数は14名）であった．体験実験の満足度は，とても満足が93%，だいたい満足が7%と参加者全員が満足している成果が得られている．	
	資料B-1-3-(1)-03_その他の活動等のアンケート集計結果	令和元年度の公開セミナーのアンケート結果を示す．参加者は49名（アンケート回答数は38名）であった．講演会全体の満足度は，満足しているが82%，まあ満足が18%と参加者全員が満足している成果が得られている．	
	資料B-1-3-(1)-04_技術相談等受付状況	平成28年度～令和2年度の期間の技術相談等受付状況を示しており，合計31件の相談事項があり，延べ31名の教職員が対応している．	

	資料B-1-2-(2)-08_コンクリート試験場収支報告書、受託試験月別受注表	受託試験活動の収支状況を示しており，令和2年度は2320千円の収入の成果が得られている．	再掲
	資料B-1-3-(1)-05_一般利用者統計(図書館作成)	令和2年度はコロナ禍で一般利用を実施できなかったが，令和元年度は一般の入館者数644名，貸出人数256名，貸出冊数947冊の利用者がいる．年度によってばらつきはあるものの，毎年多くの方に利用いただいている．	
	資料B-1-2-(2)-10_体育施設・教室等貸付状況一覧表(過去5年)	平成２８年度～令和２年度の期間に選挙，柔道，バスケットボール，陸上，大分県の活動に対して施設の貸付を行い，合計１１３０回，総利用人数２２８３７名である．	再掲

観点Ｂ－１－④　地域貢献活動等に関する問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。

【留意点】

○　具体的な改善事例については、活動状況とともに効果や成果について示すこと。

○　地域貢献活動等に関する問題点を把握しているものの、現状では改善を要する状況にない場合には、問題が生じた際に対応できる体制の整備状況について資料を提示すること。

観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）

以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。

■　満たしていると判断する

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄	備考	再掲
(1) 観点Ｂ－１－③で把握した成果を基に問題点等を把握し、それを改善に結び付けるための体制を整備しているか。 ■　整備している	◇改善の体制がわかる資料		
	資料B-1-4-(1)-01_教育システム点検改善シート(地域共創テクノセンター運営委員会)	教育システム点検改善シートで，昨年度の要改善事項，１年間の活動状況および現状の点検結果，次年度以降の改善すべき事項および計画を立てる体制が整備されている．	
	資料B-1-2-(1)-01_大分工業高等専門学校地域共創テクノセンター規則	地域共創テクノセンターの規定内の運営委員会で教育点検改善シートの審議を行う．	再掲
	資料B-1-4-(1)-05_令和2年度第4回地域共創テクノセンター運営委員会議事概要(点検改善シート)(非公表)	地域共創テクノセンター運営委員会で教育点検改善シート（案）に記載された内容の確認と審議を行った上で，教育点検改善シートの最終版を作成している．	
	資料B-1-4-(1)-06_アンケート結果検証資料	アンケート結果を関係各所で確認している．当該セミナーは満足しているが82%，まあ満足が18%であり，アンケート結果が良好であるため，改善を要しないと判断している．	
	資料B-1-4-(1)-02_自己評価点検・校務業績ポイント表	「自己評価点検・校務業績ポイント表」によって教員の毎年度の地域貢献活動を収集・把握し，その活動実績を評価する体制が整備されている．	
	◆学校が設定した地域貢献活動等の目的等の項目に対応させた具体的な改善事例があれば、具体的な内容について、資料を基に記述する。		
	資料B-1-4-(1)-03_地域貢献活動等の改善事例		
	資料B-1-4-(1)-04_自己点検・評価実施委員会のメール審議結果		

	地域貢献活動の計画に改善が生じた場合には，地域共創テクノセンター運営委員会で改善策を審議し改善している．「資料B-1-4-(1)-03_地域貢献活動等の改善事例」に令和元年度の外部評価委員会で指摘を受けた「地域貢献活動等」について改善を要する点に対して「改善計画」や「改善策（案）」の策定を行った．具体的には，科学を中心とした様々なイベントを今後も継続する改善計画を立て，オンラインイベント開催協力や実験講座への講師派遣を実践している．なお，資料B-1-4-(1)-04に審議結果を示し，全委員から承認を得た上で改善計画と改善策の決定を行っている．		
Ｂ－１　特記事項　　この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。			
選択的評価事項Ｂ　目的の達成状況の判断			
■　目的の達成状況が良好である	（リストから選択してください）	（リストから選択してください）	

選択的評価事項Ｂ

優れた点			
改善を要する点			